

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1)基本目標

「人間尊重の精神」を基盤に、激しい変化が予想される 21 世紀社会の担い手として、「心身共に健康で、主体的に考え表現でき、粘り強くがんばりぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

(2)具体目標（目指す児童像）

- ・進んで学びよく考える子ども（学びの主体性、知識・技能、思考・判断・表現）
- ・思いやりがあり心豊かな子ども（生命尊重、豊かな心情）
- ・元気でがんばる子ども（心身の健康、たくましさ）

《児童の合言葉 「かしこく なかよく たくましく」》

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（目指す学校像） 活気のある 学び合う 保護者・地域と共に歩む

（目指す教職員像） 教育愛のある 子供と共に歩む 互いに高め合う

学校は共に学ぶ場である。これからの社会では、変化を前向きに受け止め、多様な人々と協働しながら価値を創造したり、持続可能な社会の創り手として社会の形成に参画したりすることが重要となり、自分から進んで他者と関わり、異なる考えから新たな発想を生み出すような創造的な学びが求められている。そのためには、安全な学校生活が送れるように整備された、ゆとりと潤いのある環境のもとで、児童が学び合い、高め合うことができるようにしたい。その結果、児童一人一人の中に自己実現の喜びや自己肯定感などが生まれ、児童の笑顔を見ることができると期待する。また、児童だけが共に学び合うだけでなく、その成長を支える教職員も保護者も共に学び育ち合う場としての学校でありたい。共に学び合い、成長していく場としての学校づくりが重要である。

この基本理念を達成するためには、教職員一人一人が教育公務員としての高い使命感のもと、組織の一員としての自覚を持ち、互いに切磋琢磨し、学校教育目標の達成に向けて一致協力して諸活動に取り組む姿勢が望まれる。また、積極的な情報発信に基づく深い共通理解のもと、保護者や地域との連携を一層推進し、地域に根ざした特色ある教育活動を展開することが求められている。さらには、本市「小中一貫教育」の基本理念を踏まえて、地域学校園間での連携を中核とした異校種間交流の推進も重要である。

学校経営の理念「共に学び合う学校づくり」を軸とし、次項目のような経営方針を設定し、それらを具体化するために「確かな学力の向上」、「豊かな心の育成」、「健やかな体の育成」、「好ましい生活態度の涵養」、「保護者・地域との連携」、「教職員の資質・能力の向上」に取り組み、施設の安全管理・予算の適切な運用に基づきながら教育目標の具現化を目指すことにする。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 児童及び地域の実態を踏まえ、知・徳・体の調和を図りながら、社会に開かれた教育課程を編成して資質・能力を育み、教育目標の実現に努める。
- (2) 教職員の共通理解のもと、児童がよさや自主性を発揮したり協働したりできる学校づくりに努める。
- (3) 職員が日々の研究と修養に努めることを推進するとともに、同僚性と自律性を基盤にした職場づくりに努める。
- (4) ○地域学校園内の小中学校及び地域との連携を深め、義務教育 9 年間を見通した系統的・継続的な指導の充実に努める。
- (5) 地域とともにある学校づくりを推進し、家庭・地域・関係機関との連携協力体制の強化に努める
- (6) 学校教育目標達成のために、校内業務の適正化(明確化や簡略化等)を図り、教職員の健康安全を大切にし、指導の質的向上に配慮しつつ持続可能な学校体制づくりに努める。

[豊郷地域学校園教育ビジョン]

- ・学力の向上と学習態度・習慣の確立
- ・豊かな心と社会性の育成
- ・健やかな体の育成と活力ある生活の確立
- ・活気あふれる学校づくりの推進と地域・家庭との相互連携・協力

4 教育課程編成の方針

- (1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法及び同施行規則、小学校学習指導要領、栃木県・宇都宮市教育委員会の方針、第2次宇都宮市学校教育推進計画、第2次宇都宮市学校教育スタンダード、小中一貫教育・豊郷地域学校園の示すところに従うとともに、本校の教育目標達成のための経営方針、本年度の本校の重点目標等を十分踏まえて編成する。
- (2) 児童の発達段階や各教科領域の特性を踏まえ、全教育活動を通して「心身ともに健康で、主体的に考え表現でき、粘り強くがんばりぬき、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を目指した教育課程を編成する。
- (3) 社会の変化に主体的に対応できる能力の育成や創造力の伸長を重視し、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題解決する資質や能力を育てる教育課程を編成する。
- (4) 本校創立以来148年の歴史と伝統を踏まえ、学校・地域の特色、児童の実態などを考慮し、創意工夫された教育活動を展開することによって、人間性豊かな児童の育成を目指す。
- (5) 「地域から学ぶ学校」をテーマとして、特色ある学校づくりに取り組み、地域人材や地域素材の積極的な活用による体験活動を推進する。
- (6) 基礎・基本の定着と本校の特色を生かした教育の実施に向け、学習指導法の工夫・改善を図る。
- (7) 「社会的な変化を視野に入れ、それに対応できる資質・能力を身に付ける」という視点から、教育活動全般を見直しその改善に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・ 学校経営のビジョンを教職員で共通理解し、課題に対して協働して取り組む体制づくりを進める。
- 学校園の教育活動における小中一貫教育の取組を推進する。

【学 習 指 導】

- ・ 授業のねらいを明確化し、主体的・対話的で深い学びを通して資質・能力を育成する授業づくり学び合う授業づくりに取り組み、知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養に努める。
- 家庭学習習慣の定着を図る。

【児 童 生 徒 指 導】

- あいさつや時と場に応じた言葉遣いなど、きまりやマナーを守る児童を育成する。
- ・ 児童の自己肯定感を高めたり、感謝の心を育んだりする。
- ・ 縦割り班活動や学級経営を通して適切な人間関係づくりを推進し、不適応やいじめ防止に努める。

【健康（体力・保健・食・安全）】

- なわとび検定や持久走を実施し、教育活動全体を通して児童の発達段階に応じた日常における体育的指導の充実に努める。
- ・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に全職員で取り組むとともに、交通安全教室や地震・火災・竜巻・不審者対応の避難訓練などを実施し、児童の危機回避能力の向上に努める。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒ 児童 85%以上	・「できた」「分かった」という実感がもてるような学習活動を工夫し、子どものよさや活力を生かした授業を展開する。 ・発達段階に合わせた話合いの型・話型を作成し活用するとともに、学び合いを通して、自分の考えを広げ深められる活動の充実に努める。 ・思考・判断・表現する活動を充実させるとともに、個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、比較・関係付け・分類・統合等の視点を大切に、対話的で深い学びへと導く。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 95.5% 数値指標より10.5ポイント増 【次年度の方針】 ・端末を活用し、対話的な学びを進めていき、児童が主体的に学び合う環境づくりを行う。そのために、学び方の具体的な方策を示し、安心して自分の考えを伝えたり、自分たちで課題解決が図れたりできるような学習環境を整える。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・自分の考えをもつとともに相手の考えや思いを尊重し、相互に共有し、高め合える関係づくりに努める。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を実施する。 ・互いに支え合い励まし合える雰囲気づくりに努める。また、適切な言動は称賛して思いやりの心を育む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.6% 数値指標より9.6ポイント増 【次年度の方針】 ・今後も継続し、学校全体で互いに支え合い励まし合える雰囲気づくりに努め、思いやりの心を育てていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・「みんなのやくそく」の項目を生活目標に反映させ、朝の会等で確認し合うなど意識付けすることにより、基本的な生活習慣の定着を図る。 ・道徳科の授業の充実を図るとともに、日常生活の中で機会を捉えてきまりを守ることの大切さに気付かせる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.4% 数値指標より4.4ポイント増 【次年度の方針】 ・今後も継続し、授業と生活のきまりや、マナーを意識させていくための指導の工夫改善を全職員で取り組んでいく。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・地域協議会や学校園などの地域ぐるみのあいさつ運動を展開するとともに、校内でも生活向上委員会を中心に「あいさつ運動」を実施したり、教職員が進んであいさつしたりすることにより、進んであいさつができるような雰囲気づくりに努める。 ・道徳科や学級活動の時間に、あいさつや礼儀について取り上げ、その大切さに気付かせながら理解を深める。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 93.9% 数値指標より8.9ポイント増 【次年度の方針】 ・生活向上委員会を中心としたあいさつ運動、小中合同あいさつ運動を継続して実施していく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・学期ごとの学習や生活のめあてを立て、目標達成に向けあきらめずに取り組めるよう、励ましながら支援する。 ・道徳科の授業などにおいて、自分のよさや適性、将来の夢や目標について考えさせる。また、それに向かって努力することの大切さ、その尊さについて気付かせる。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.4% 数値指標より6.4ポイント増 【次年度の方針】 ・今後も学期ごとにめあてを立てるとともに、定期的に振り返り、達成するためには何が必要なのかを考えたり、目標に向かって粘り強く取り組んでいる児童を称賛したりして引き続き指導していく。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。 ・豊央ランナー、大縄大会の実施や各種検定の実施、「豊央サーキット」の実施などにより、体力の向上を図る。 ・交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練を通して、正しい判断力と危機回避能力を育成する。 ・児童が、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々な健康・安全に関する正しい知識を習得し、それを生活に結び付けることができるよう、各教科(含道徳科)、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動等、学校の教育活動全体を通して指導の徹底を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 94.6% 数値指標より9.6ポイント増 【次年度の方針】 ・地域学校園の食育推進と、家庭との連携協力により、地域の食材への関心や栄養に関する知識を深め、食に対する意識を高める。 ・ドッジボール大会、豊央ランナー、大縄大会の実施や各種検定の実施、「豊央サーキット」の実施などにより、体力の向上を図る。 ・交通安全教室、避難訓練、引渡し訓練を通じた、正しい判断力と危機回避能力を育成する。 ・児童が、新型コロナウイルス感染症対策をはじめとする様々な健康・安全に関する正しい知識を習得し、それを生活に結び付けることができるよう、児童実態や地域の状況に応じて、迅速な対応・指導を行う。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・自立意欲や社会性を育成するための基礎づくりを通して、キャリア教育を推進し、他者と積極的に関わることや社会的関心を高められるよう支援する。 ・様々な機会に、自分の役割を果たして最後までやり遂げ、達成感を味わえるような支援を心掛ける。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.4% 数値指標より6.4ポイント増 【次年度の方針】 ・今後も地域の人材を活用する取り組みを各学年で行い、他者と積極的に関わる機会を設け、児童の社会的関心を高めていく。 ・各学級で一人一役の当番活動を行う等、自分の役割を果たす達成感を味わえるように支援していく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 「児童は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・外国語や外国語活動の授業を通して、英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる。 ・授業以外でも、休み時間や給食、清掃活動や学校行事など、あらゆる場面でALTを活用し、生きた英語に触れる機会の充実を図る。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.7% 数値指標より12.7ポイント増 【次年度の方針】 ・帝京大や北高の留学生との交流活動を継続し、児童が積極的に英語でやり取りできるように支援する。また、外国語活動、外国語科の充実を図り、児童が英語を話してみたいと思えるような授業を展開する。また、ALTを活用し、授業以外でも英語でやり取りできるよう支援する。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 「私は、宇都宮の良さを知っている。」における肯定的回答 ⇒児童 80%以上	・生活科や社会科、総合的な学習の時間など、地域を教材に扱った学習の充実を図る。 ・宇都宮の歴史や伝統文化、産業や特産物などについて理解し、郷土への愛情と誇りをもてるよう指導する。	【達成状況】 児童の肯定的回答率 85.5% 数値指標より5.5ポイント増 「総合的な学習の時間」で取り扱っているため、児童の関心が高まっている。 【次年度の方針】 ・「宇都宮学」の学習を通して、知識理解を深め、郷土への愛情や誇りを持てる指導を継続して行う。

A10 児童は、ＩＣＴ機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８５％以上	・１人１台端末をはじめとするＩＣＴ機器の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。 ・プログラミング教育の推進を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 ８８．９％ 数値指標より３．９ポイント増 【次年度の方針】 ・１人１台端末をはじめとするＩＣＴ機器の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。 ・プログラミング教育の推進を図る。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８５％以上	・豊老連をはじめとする地域の高齢者と交流する機会を設け、相手への思いやりや感謝の気持ち、敬う心などを育む。 ・時と場に応じたあいさつや言葉遣いができるよう指導を図る。 ・道徳科や学級活動の時間に、思いやりや感謝について取り上げ、その大切さに気付かせながら理解を深める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 ９４．６％ 数値指標より９．６ポイント増 【次年度の方針】 ・今後も、生活科や総合的な学習の時間を通して、交流を深め、高齢者を敬う心を育んでいく。また、交通ボランティア等で普段からお世話になっていることも意識付けを図り、感謝の会等でその気持ちが伝えられるようにしていく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８０％以上	・自然に関する関心を高め、自然とのふれあい体験を重視するとともに、環境に対する問題意識をもたせ、問題解決に取り組む実践的な態度を育成する。 ・総合的な学習の時間等を活用し、環境問題や国際理解、防災などをテーマ通して地域や世界の学習素材を活かしながら、教科の枠を超えた横断的、総合的なカリキュラムの開発・実践を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 ８６．７％ 数値指標より６．７ポイント増 【次年度の方針】 ・持続可能な社会について教科学習の中で意識づけを図るとともに、教科学習で得た知識を横断的な学習や実生活に生かせるような場の設定を行うことで、特に環境問題や防災に対する意識を高められるようにする。
B1 児童は、家庭学習や自主学習の習慣が身に付いている。 【数値指標】 「児童は、宿題など家庭での学習を忘れずにやっている。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８０％以上	・発達段階に応じた家庭学習の内容・方法について、例などを示しながら具体的に指導する。 ・学習用具、テレビやゲームの時間について、学年だよりなど、様々な機会に家庭に通知し、学校と保護者の共通理解のもと、指導を行う。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 ９２．３％ 数値指標より１２．３ポイント増 【次年度の方針】 ・児童が自主的に学習に取り組めるように、具体的な内容や方法を示したり、手本となる取り組みを伝えたりしていき、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。
B2 児童は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「児童は、休み時間や放課後などに進んで運動している。」 における肯定的回答 ⇒児童 ８０％以上	・業間や昼休みを通して外遊びや学級の共遊を推奨するなどし、運動の習慣化を図る。 ・「豊央サーキット」や各種検定カードの実践、ミニマム達成に向けた取組などを通して運動の習慣化に努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 ７８．９％ 数値指標より１．１ポイント減 昨年度より４．５ポイント減 【次年度の方針】 コロナ渦ではあるが、可能な運動を実施できるように、努めていく。

目 指 す 学 校 の 姿	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・教育上特別な支援を必要とする児童に対して実態把握を行い、合理的配慮が提供できるよう、学校全体で支援する体制づくりに努める。 ・校内支援委員会の組織を活用し、かがやきルームの効果的な運営や、支援チーム等の支援体制を整えとともに、学校と家庭及び関係機関との連携を推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.3% 数値指標より12.3ポイント増 (昨年度は100%) 【次年度の方針】 ・特別な支援が必要な児童に合った合理的な配慮が行えるよう、校内支援委員会で共通理解を図り学校全体で支援できるような体制をさらに整えていく。 ・本人や保護者の要望に配慮しながら「かがやきルーム」の効果的な運営を継続していくとともに、関係機関とも連携を図りながら適切な支援をしていく。
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・全教職員共通理解の下、いじめは絶対に許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・いじめゼロ強化月間等を活用し、道徳科や学級活動などでいじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行うことにより、望ましい集団づくりを心掛ける。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.3% 数値指標より13.3ポイント増 【次年度の方針】 ・全教職員共通理解の下、いじめは絶対に許されないことを指導するとともに、児童の小さな変化にも心を配り、チームでの問題解決に取り組む。 ・道徳科や学級活動などで、いじめや生命尊重、自他との関係を題材とした授業を行い、望ましい集団作りを心掛ける。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・欠席状況共有シートを活用し、全教職員が共通理解のもと不登校を未然に防ぐよう積極的に関わるとともに、兆候が見られた場合はケース会議を開き、全校体制で支援する。 ・日常の児童観察、Q-U調査、いじめアンケート、教育相談を活用し、職員間の情報交換・共有、保護者との連携を図り、不登校を未然に防ぐよう努める。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 97.4% 数値指標より12.4ポイント増 昨年度より1.3ポイント増 【次年度の方針】 ・欠席状況等から不登校の兆候が見られた場合は、早めに保護者と連携を図りながら未然防止に努めていく。 ・日常の観察だけでなく、Q-Uや教育相談等を活用し児童一人一人の気持ちに寄り添いながら児童理解に努めていく。
	A16 教職員は、外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・個々の実態に応じた支援を組織的、計画的に行えるよう、支援委員会等を活用し、指導を行う。 ・日本語指導教師、日本語指導ボランティア等を活用するなど、必要に応じて専門的な立場の方を積極的に活用していく。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.3% 数値指標より12.3ポイント増 【次年度の方針】 ・個々の児童の実態に応じた支援を計画的に行うことができるように、関係機関と連携し外部の専門的な立場の方の活用を進めていく。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「私は、今の学校が好きです。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・一人一人に応じた支援や場の設定を行い、よさを認め伸ばす指導・支援に誠意をもって取り組む。 ・地域の教育力なども活用しながら、児童の主体的な活動を推進し、児童が学校生活全体を通して、成就感や達成感を味わうことができるようにする。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 89.6% 数値指標より4.6ポイント増 昨年度より1.9ポイント増 【次年度の方針】 ・コロナ禍の中でも児童が成就感や達成感を味わうことができるよう活動を工夫する。 ・児童一人一人が居がいのある学級経営を行うことで、安心して学校生活が送れるようにしていく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・授業のねらいを明確にし、まとめや振り返り活動を適宜設けることで、育むべき資質・能力を明確にした学習活動を行い、学力向上に努める。 ・学習内容の工夫、指導法の改善、効果的な教材の使用や指導体制・指導形態の工夫を行い、より分かりやすい授業を展開することで、学力の向上を図る。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率 98.2% 数値指標より13.2ポイント増 【次年度の方針】 ・1人1台端末を活用し、学習指導要領に対応した指導の充実に努めるとともに、まとめや振り返り活動の工夫を図ることで、習熟度を高めたり学習意欲の向上を図ったりしていく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 85%以上	・全教職員が学校経営の理念・方針等を共通理解し、児童のよさを認め励ましながら、同歩調で学習や諸活動の教育活動に取り組む。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.3% 数値指標より12.3ポイント増 【次年度の方針】 ・学校経営方針等を全教職員で共通理解し、目的達成のために協力して教育活動に取り組むことができるようにする。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	・学校スタッフの職務と勤務について共通理解を図り、学校の課題への対応や業務の効率的な実施に取り組めるよう、教職員の協働体制を構築する。 ・校務運営上、必要な情報を共有するための場を設定し、教職員と専門性を有する学校スタッフとの円滑なコミュニケーションを図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.3% 数値指標より17.3ポイント増 昨年度より5.8ポイント増 【次年度の方針】 ・全教職員で目的達成のためのよりよいアイデアを出し合い、業務の効率化を図っていく。 ・業務改善のための時間を確保し、当事者意識の啓発を図る。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学生や中学生が交流活動を行っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	・<u>地域学校園のビジョンに基づいて、各小中学校と連携しながら学力の向上や豊かな心の育成、健やかな体の育成に努める。</u> ・<u>小中あいさつ運動や保健指導、給食指導、図書館教育などにおいて、連携を図りながら指導にあたる。</u>	B 【達成状況】 保護者の肯定的回答率 63.8% 数値指標より16.2ポイント減で目標値に達していない。 昨年度より13.5ポイント減 【次年度の方針】 ・コロナ禍でも実施可能な活動を実施しながら小中連携を図っていく。 ・学校便り等を活用し、保護者や地域へ周知・啓発活動を行っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒地域住民 85%以上	・地域の文化財や特色を生かした教育活動をさらに充実させるために、年間計画の見直しや事前の計画的な準備、打合せを十分にもち、効果的な体験活動やふれ合い活動を進めて、地域を理解し親しむ児童を育てていく。	A 【達成状況】 児童の肯定的回答率 92.1% 地域住民の肯定的回答率 100% 【次年度の方針】 コロナ禍ではあるが、実施方法を工夫（オンライン等）しながら、今後も実施していく。

A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 85%以上	・校外学習を計画的に取り入れることにより、効果的な教育活動が展開できるようにする。 ・学校行事や授業において、学校と家庭・地域・企業等とが連携して、充実した教育活動を推進していく。	B	【達成状況】 保護者の肯定的回答率 84.8% 数値指標より0.2ポイント減 【次年度の方針】 社会的状況に合わせ、学校行事や授業において、通期の人材・施設等に呼び掛け、充実した教育活動が展開できるよう配慮してきたが、実践できたことを「学年だより」や「学校だより」等で今後も継続して紹介していきたい。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 における肯定的回答 ⇒保護者 80%以上	・毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所等については、迅速な修繕・改善を行う。 ・来校者、保護者の自家用車乗り入れ制限の周知や、学校開放等の行事での見回りの協力依頼など、地域・PTA・縁下会と連携・協力を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 87.8% 数値指標より7.8ポイント増 【次年度の方針】 ・毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所等については、迅速な修繕・改善を行う。 ・来校者、保護者の自家用車乗り入れ制限の周知や、学校開放等の行事での見回りの協力依頼など、地域・PTA・縁下会と連携・協力を図る。 ・HP・メール配信を利用し、児童の安全が最優先になるように連携・協力を呼び掛ける。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・1人1台端末やプロジェクタ、実物投影機、デジタルカメラ等の各種ICT機器、様々なジャンルの図書資料の整備、管理を行い、また、デジタルカメラの積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。	B	【達成状況】 児童の肯定的回答率 88.9% 数値指標より3.9ポイント増 【次年度の方針】 ・1人1台端末やプロジェクタ、実物投影機、デジタルカメラ等の各種ICT機器、様々なジャンルの図書資料の整備、管理を行い、また、1人1台端末の積極的な活用により、情報活用能力の育成を図る。 ・授業をはじめ様々な場面で、新聞や図書資料を気軽に活用できる環境の充実を図る。
B3 教職員は、学校課題等に関する研究に主体的に取り組んでいる。 【数値指標】 「教職員は、主体的に授業研究に取り組み、同僚性を育みながら、指導法の工夫改善に努めている。」 における肯定的回答 ⇒教職員 80%以上	・学校課題に基づいて、研究のねらいを明確にしながら互いの授業を参観し合い、指導法について意見を交わすことによって授業改善に取り組む。 ・高い自己研鑽意識に基づく主体的な自己研修と洗練された同僚性に基づく協働的なグループ研修の融合を図り、互いに学び合う職場づくりを推進する。	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 97.3% 数値指標より17.3ポイント増 【次年度の方針】 ・互いの授業を参観する機会として一人一授業の実践を継続し、授業改善に取り組んでいく。 ・協働的なグループ研修の機会を設け、互いに学び合える職場づくりを推進していく。

本校の特色・課題等	B 4 学校は、縦割り班活動や児童会活動などを工夫し、児童が、自分のよさや可能性を発揮し、他者と協調しながら充実した学校生活が送れるような取組を行っている。 【数値指標】 「児童は、縦割り班活動や児童集会などのいろいろな活動で、みんなと協力しながら、進んで参加している。」 における肯定的回答 ⇒児童 85%以上	・「自分たちが学級・学校をつくる」をテーマに、児童会や委員会活動、学級の係活動などの場で、児童の自主性や創造性、協働性を育む。 ・縦割り班活動や縦割り清掃を中心とした異学年交流を通して、リーダーシップとフォロワーシップ、互いに他を思いやる心などを育む。	B 【達成状況】 児童の肯定的回答率 91.3 % 数値指標より6.3ポイント増 【次年度の方針】 ・児童の主体性や自主性を育むために、高学年児童への声掛けを積極的に行い、有用感や活動への達成感を持たせていく。 ・縦割り班活動を中心として、異学年交流を充実させ、協働性や創造性を育む場の設定をしていく。
-----------	--	--	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大がたびたび見られ、予定されていた教育活動が思うようにできない中ではあったが、全体アンケートでは肯定的回答（「とても思う」と「まあ思う」を合わせたもの）が数値指標を達成した項目は29項目中26項目であった。達成できなかった3項目のうち2項目は、-0.2ポイント、-1.1ポイントと、わずかに達成できない状況であったことを考えると、概ね達成できたのではないかとと思われる。

A 2・1 1「児童は、誰に対しても思いやりの心をもって優しく接している。」の児童の肯定的回答が94.6%で、昨年度よりも6ポイント高くなっている。コロナ禍で様々な生活・行動制限がありながらも、互いに支え合い、励まし合いながら生活しようと心掛けている児童が多くなっている。次年度には地域の方々との触れ合う機会がもてるようになった際に生かしていきたい。

A 6「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」では、児童の肯定的回答が94.6%と、昨年度より5ポイント高くなっている。コロナ禍にあって、児童自身が健康や安全により気を配りながら生活していることがうかがえる。感染状況を踏まえながら、感染予防に努めるとともに、コロナ禍でのより良い生活環境づくりに次年度も努めていく。

A 9「児童は、宇都宮の良さを知っている。」については、肯定的回答率が昨年度も低かった項目であるが、保護者は63.2%と昨年度とほぼ変わらなかったのに対し、児童は85.5%と、5ポイント増加していた。「総合的な学習の時間」等で扱う「宇都宮学」に今年度取り組んだことで、児童が宇都宮の良さに触れ、知識理解を深められてきたためと推察される。引き続き、年間指導計画に沿った取組を行いながら、さらに郷土についての学習も進めていくことで、郷土への愛情や誇りをもてるようにしていく。

★B 2「休み時間や放課後などに、進んで運動している。」では、昨年度に比べて児童の肯定的回答が4.5ポイント下がっている。体育の授業の中での運動量の確保や様々な運動を経験する機会を与えられるように努めるとともに、コロナ禍であっても児童が運動に親しめるような取組を見出していく。

★A 2 1「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」については、保護者の肯定的回答率が63.8%で数値指標より16.2ポイント低かった。コロナ禍においても実施可能な小中連携の方法を模索していかなければならない。保健関係・給食関係・図書館教育関係などにおいては、コロナ禍であっても継続的に連携の取組を行っていたので、地域学校園のビジョンに基づいた連携を実践していきながら、保護者・地域への啓発活動に力を入れていく。

A 2 2「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。」では、コロナ禍ではあるが連携・協力できる方法（オンライン等）を工夫しながら、次年度の様々な計画・実施に取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

- ・全体的な印象として、年度計画の29項目のKGIを概ね達成できている点について、学校の尽力に感謝したい。終焉の見えないコロナ禍でGIGAスクール構想が実装となり、学校側も保護者側も五里霧中な面があるかと思われるが、児童は前向きに取り組んでいるように感じられる。新たな制度、計画には新たな問題が常であるが、学校・保護者・地域が協働して、児童の教育環境良化に努めていくべきという基本的なスタンスは変わらない。翻って、評価項目の計画値となるKGIの妥当性について、根拠がある設定となっているか否かが非常に曖昧である。学校経営のPDCAを考える上でももちろん重要なものであるが、なぜその数値であるのか？という時代背景、理想から導かれる目的がもっと明確に発信されるべきであろうと感じる。
- ・評価項目の内容について、もう少し検討の余地があるのではないか。例えば、A12「児童は『持続可能な社会』について関心を持っている」という項目について、アンケートを取っても、児童が本質的な理解を得られるかどうかの指標にならないと感じる。これからの未来を創る世代に向けて、初等教育からSDGsを取り入れる意図は分からなくはないが、本質的価値が伝わるかどうかは別話であり、初等教育高学年あるいは中等教育からでも十分遅くないと感じる。
- ・「地域学校園」という考え方について、自らのまちに誇りを持ち、愛郷心を抱くことのできる児童を育てていく上で、この考え方はとても重要だと思うが、まだまだ保護者側の理解が薄く、浸透していないのが現実であろう。どれだけの保護者がこの地域学校園の存在と意図を説明できるだろうか。GIGAスクール構想に伴うネットリテラシーのような新しい問題に向き合うのは当然だが、従来の問題である政治リテラシーの向上も課題だろう。コロナ禍によって、人々のコミュニケーション数は限りなく少なく、効率的に動くこととなっていて、地域と個人の関わり合いはますます軽薄になっていくと予想される。このコミュニケーションの中核ににいるのが児童であり、教育の現場である「学校」である。PTAも含め、地域と個人の接点が失われていくことのないように、今できることを模索する必要がある。
- ・コロナ禍の中、予定されていた活動が思うようにできない1年ではあったと思うが、ほとんどの項目で数値指標を達成できたことは誠によかった。
- ・「小中一貫教育・地域学校園」の取組に関する数値が低いようだが、コロナがありなかなか思う活動ができていないことを考えると、64%近くあるのは充分だと思う。ホームページやおたより等の広報をすると、さらに保護者の理解が進むのではないか。
- ・B2, A21, A23では、人間同士が心から分かりあえるコミュニケーションの形が今までのように自由に声を出して意見を出し合えなくなり、また身体活動が思うようにできなくなった点が数値として反映されていた。コロナ感染が拡大している状況下で、児童・教職員・地域住民が一同となって打ち勝つために立ち向かっていかなければならないと強く思う。評価書を拝見し、前回に比べて数値指標が下がっている項目を見ると、懸念されるポイントがはっきり表れていると感じた。
- ・全ての項目において、達成状況が極めて高く、多くの児童が21世紀の宇都宮市、栃木県、そして日本を牽引する中心メンバーになると期待できる。
- ・A9「宇都宮学」・「ふるさと学習」及びA8「外国語」は、期待通り高い達成状況であった。「ふるさと学習」が、体系的な学習の機会が生まれたことで、子どもの将来の活躍を願う保護者はこの学習の成果に大いに期待していると思われる。「宇都宮学」・「ふるさと学習」の授業がどのように展開されているかは分からないが、「外国語」学習と組み合わせて実施すると素晴らしい成果になるのではないか。例えば、ALTから自らの故郷について日本語や英語で話を聞いたり、それを記した文章を見せてもらったり、反対に児童は「宇都宮学」で自らの故郷について日本語や英語で発表したり文章を書いたりする。さらに、卒業時には写真を付けた「われらの故郷：豊郷」、可能なら英語での文集（片言の英語解説付きの、心に残る故郷の写真集でも可）などができると素晴らしい成果となる。
- ・豊郷中央小学区の特徴の一つは、海外で長く勤務され、その地で学校教育を受けさせながら子育てをされてきた方々が多数いること。「異文化の中での子供教育と海外生活」について、帰国後の子育て哲学も含めたお話を伺う機会を設けてほしい。なお、この事業は、ふるさと学習・宇都宮学と結び付けられる。上記事業を実施できるのは宇都宮市で豊郷中央小学区だけであり、それは当学区のPRや豊郷地区の発展に欠かせない、学校教育に大きな期待を寄せる若い世代の人口増加にもつながると思われる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

コロナ禍の中、実施可能な教育活動を実践してきたことに対して、概ね目標を達成することができ、各方面からも一定の評価が得られたものとする。

令和4年度も、コロナ禍での生活が続くことが予想される。さらなる教育活動の充実を目指し、特に下記のことを重点的に取り組んでいく。

- ・「かしこく なかよく たくましく」を合言葉に、『確かな学力の向上』、『豊かな心の育成』、『健やかな体』の育成を目指し、全教職員の共通理解のもと、教育活動の見直しと改善を図る。
- ・新学習指導要領でねらっている「主体的・対話的で深い学び」を実現させるための手だてを、職員研修として時間を確保するなど、学ぶ機会を充実させていく。また、コロナ禍においても実施可能な学習形態の工夫についても併せて学んでいく。
- ・GIGAスクール構想に基づいたICT活用の一層の充実を図り、1人1台端末の授業等での有効な活用の仕方について、教職員が研修等でしっかり学び、児童に還元できるように取り組んでいく。

○地域協議会や学校園、児童会による「あいさつ運動」などを通して、挨拶することの良さを実感できる児童を育てていく。また、教職員や保護者、地域住民などの大人から進んで挨拶したり言葉掛けをしたりして、自然に挨拶ができるような雰囲気づくりに努めるなど、連携・協力を働き掛ける。コロナ禍によって、人々のコミュニケーションの機会が減少しているため、軽薄となった人と人との関わり合う機会を意識的に作り出し、児童のコミュニケーション力を育成・向上させていくよう、PTAも含め、できることを模索していく。さらに、きまりやマナーを守った生活を送れるように、家庭や地域の理解を深め、協力を得られるような取組を行う。

- ・特色ある学校づくりや、保護者や地域協議会との連携を一層進めるために、信頼関係をより確かなものに強化しながら、地域の協力を得た取組を展開する。コロナ禍ではあるが、地域の人材、各種事業所、自然環境などの様々なものを有効に活用し、「地域から学ぶ学校」づくりを推進できるようにする。また、各種たよりやホームページ等での情報発信を充実させるなど、学校の取組をより分かりやすく伝えるための方法・内容の改善を図り、さらなる理解・協力につながるようにする。さらに、生活科・社会科・総合的な学習の時間を中心に、地域教材を扱った学習の充実を図ることで、児童の「宇都宮の良さ」の理解・深化、郷土への愛情や誇りをもつことにつなげていきたい。
- ・児童会活動や学級活動などにおいて、児童の主体的な活動を推進することで、達成感や成就感を味わわせ、学校の雰囲気をはっきりと生き生きとしたものにできるよう努める。また、個に応じた支援を行い、一人一人の居場所づくりを進め、安心した学校生活が送れるよう支援を行っていく。
- ・市共通の質問項目A12「『持続可能な社会』について、関心をもっている。」については、内容が児童には難しく、本当に分かって回答しているのかが曖昧なところがあったので、担任が年度始めから児童の発達段階を踏まえて分かりやすく説明し、アンケートに回答する際には内容をある程度理解した上で行えるようにする。
- ・「宇都宮学」に関しては、生活科や社会科、総合的な学習の時間などを活用し、地域を教材に扱う学習のさらなる充実を図る。また、他の教科（外国語など）との関連をもたせることができないか、検討していく。

●次年度の学校評価書の作成にあたっては、評価指標の数値の妥当性について検討する。数年間の経年変化を参考に、根拠をもたせた設定となるようにしていく。